

V232a **明野 50cm 可視光望遠鏡の 2015 年度運用実績**

藤原太智, 齊藤嘉彦, 吉井健敏, 栗田真, 矢野佑樹, 橘優太郎, 小野雄貴, 針田聖平, 村木雄太郎, 谷津陽一, 河合誠之 (東京工業大学), 黒田大介, 花山秀和, 柳沢顕史 (国立天文台)

明野 50cm 可視光望遠鏡はガンマ線バースト (GRB) の残光観測を行う MITSuME (Multicolor Imaging Telescopes for Survey and Monstrous Explosions) プロジェクトに参加している望遠鏡の 1 つであり、東京工業大学が運営している。この望遠鏡は継続時間の短い GRB の残光を観測するために、X 線天文衛星 Swift が検出した GRB の位置情報を自動で受け取り、最短 30 秒以内で追跡観測を開始する機能を備えており、これによって迅速な GRB の残光観測を可能にしている。また観測の監視は東京工業大学の岡山キャンパスから遠隔で行われている。今年度から新たに行っている試みとして、国際宇宙ステーション (ISS) の日本実験棟「きぼう」に搭載されている全天 X 線監視装置 (MAXI) が検出した GRB の自動追跡観測がある。GRB の残光観測に加えて、明野望遠鏡では活動銀河核やブラックホール連星などのモニター観測、他機関との連携観測も行っている。

本講演では今年度行った GRB の残光観測、活動銀河核やブラックホール連星などのモニター観測の解析結果について報告する。